

施策	44	交通機関と道路の充実	政策	4	暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり		
施策主管課	土木課	課長名	小平 亨	内線	2720	政策担当部長名	建設部長 井坪憲俊
施策関係課名	リニア推進課、国県リニア事業課、管理課						
重点施策	関連計画	飯田市生活交通ネットワーク計画、橋梁長寿命化修繕計画					

1 施策の目的

目的	対象	市民、市内滞在者、財産、事業者
	意図	便利で安全に移動ができる

2 現状把握

(1) 対象指標、成果指標の状況

対象指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	見込み 28年度
住民人口	人	105,691	105,335	104,728	103,947	103,105	102,446	102,000
事業所数 (H24以降は5年ごとの調査予定) (H21経済センサス基礎調査5年毎)	箇所	6,922 6,848	-	-	6,411	-	-	6,400 6,800
道路延長(国県市道) (長野県土木部道路現況より平成25年4月1日現在)	km	1,971.5	1,973.4	1,971.2	1,975.5	1,976.0	1,976.2	1,980.0
成果指標 成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	目標 28年度
市内の移動に不便を感じる市民の割合 【道路】(市民意識調査)	%	46.4	44.7	48.9	45.0	45.3	43.8	40.0
市内の移動に不便を感じる市民の割合 【交通機関】(市民意識調査)	%	39.0	38.5	45.6	44.2	46.3	42.1	35.0

(2) 成果向上に向けての役割分担

主体	役割分担	ムトス指標と把握方法 と単位	23年度 実績	24年度	25年度	26年度	目標 28年度
行政 市(国・県)	市民バス等による利便性の向上 道路整備 (維持管理等も含む) *道路に歩道、整備に安全管理の役割も含まれる。	市民バス、乗り合いタクシーの利用者数【人】	319,771	336,752	350,667	370,823	329,000
		国県道を含めた幹線道路の整備率【%】(整備延長/路線の総延長)	44.0	44.3	44.5	44.7	46.4
		歩道延長【m】	220,876	223,152	223,154	225,225	224,562
		橋梁耐震整備数【橋】(橋梁長寿命化修繕計画による修繕橋梁を含む)	0	0	1	5	10

主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項
市民等	個人	生活道路を大切にする(清掃・除雪・道作り・通報など行う)	生活道路の維持管理については、世帯の約8割の皆様が実施され交通の安全確保に協力いただいている。
	企業	交通機関の運行と安全確保	バス(9路線)の他、乗合タクシー(13路線)を導入し、利用者は徐々に増加している。鉄道の利用者は減少傾向だが、運行本数は維持されている。
	地域の団体 (まちづくり委員会、道路愛護会等)	定期的な道路愛護(清掃・補修)	各地区で道作り、美化活動等の作業が年2回程度行われている状況から、実施回数約40回/年、実施人数約6万人/年による地域活動が実施され道路愛護に協力をいただいている。

3 平成26年度の評価結果

(1) 実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)

計画どおり取り組めた
おおむね計画どおり
あまり取り組みなかった
達成できなかった

(2) 施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

進んだ
ある程度進んだ
あまり進まなかった
進まなかった

## 4 平成26年度の取組概要と評価(成果や課題、その要因)

### 【施策全体の評価】

・市道の新設・改良については、道路評価に基づき計画的・効率的な事業実施を図り、交通の安全・安心の確保に努めた。市道の維持管理については、地区からの報告に基づき、速やかな維持修繕工事の発注に努めた。橋梁の維持管理については、橋梁長寿命化修繕計画により、計画的な長寿命化修繕工事の実施を図った。三遠南信自動車道を始めとする国県道の整備は、確実にその進捗が図られている。公共交通についてはエリア制運賃の実証実験に引き続き取り組むとともに、利用者の意見を伺う中でダイヤ改正や停留所の見直しを行った。またJR飯田線については活性化期成同盟会の事業として、イベント列車の運行やアンケートの実施等を行い、利用者の意識啓発及び利用状況の的確な把握に努めた。

・施策中の各事務事業の実績を総合的に評価し、概ね計画通り目標を達成していると判断した。

### 【事務事業群テーマ別の評価】

#### <道路の新設・改良>

・社会資本整備総合交付金事業により、市道2-48号駄科桐林線他4路線の事業進捗を図った。  
・幹線道路改良事業により、幹線道路23路線、市道改良事業により、生活道路71路線の工事・補償・設計等を行った。  
・漬地登記・道路台帳補正事業により、各種道路改良事業等に伴う登記業務や台帳補正業務を行った。  
・各種道路改良事業により、道路環境の向上を図り、交通の安全・安心の確保を図っているが、各種企業・事業者等から産業道路の整備要望や各地域から生活道路の整備要望が多くあるが、限られた予算での対応に苦慮している。  
・リニア中央新幹線に係わる周辺地域のインフラ整備において、道路整備の考え方や手法の検討が必要である。  
・ラウンドアバウトの有効性が認められ、環境や防災面で優れ、重大な交通事故が起りにくい環状交差点として、道路交通法に正式に位置づけられた。また、ラウンドアバウト普及促進協議会を9月に設立し、研修会を通して有効性を全国に発信した。

#### <道路の維持管理>

・社会資本整備総合交付金事業により、市道1-54号伊豆木下瀬線他1路線の舗装修繕工事を行うとともに、道路ストック総点検により主要路線における道路構造物の点検を行った。  
・道路補修事業357カ所及び道路舗装補修事業204カ所の道路構造物や道路舗装の補修工事の実施及び158箇所において住民自ら行う補修工事への資材支給を行った。  
・道路維持管理事業により、35箇所において側溝等の清掃や支障草木の除去を行った。  
・街路管理事業により、街路樹の剪定や病虫害駆除等を市内一円で行った。  
・幹線道路除雪事業により、除雪指定路線273路線において除雪業務及び融雪業務を行った。  
・各種道路維持管理事業により、道路環境の向上、交通の安全・安心の確保を図っているが、今後道路施設等の老朽化による維持補修費の増加が予想される。維持補修費の確保と計画的・効率的な事業実施によるコスト縮減が必要である。

#### <橋りょうの維持管理>

・社会資本整備総合交付金事業により、橋梁長寿命化修繕計画に基づいた3橋の実設計、5橋の修繕工事を行った。  
・橋りょう補修事業により、11箇所の床版、橋台、目地、欄干等の補修工事を行った。  
・橋りょうの維持補修により、橋梁の安全性の向上による交通の安全・安心の確保を図っているが、飯田市で管理する橋梁の多くが耐用年数を向かえており老朽化が進んでいる。今後、計画的な架け替えと維持補修による長寿命化を図り橋梁に係わるコスト縮減が必要である。

#### <国・県による事業の促進>

・長野県内の三遠南信自動車道については、国道152号現道活用区間を含め、順調に工事が進められている。(飯橋道路2工区、3工区、青崩峠道路、龍江IC(仮称)から飯田東IC(仮称)間:平成29年度開通予定、国道152号現道活用区間小道木バイパス:平成27年度開通予定)。  
・県道青木東線は平成27年度開通予定、平成26年10月長野県が「リニア関連道路整備」を公表し、国道153号飯田北改良、座光寺スマートICからリニア駅間のアクセス道路について、ルートの検討を進めている。  
・各種団体や連絡協議会等と連携し、関係機関に要望・提言活動を行い予算確保に努め、三遠南信自動車道を始め国県道について改良工事の促進が図られた。  
・市民等から、三遠南信自動車道の早期開通や国県道の改良要望がある。

#### <公共交通機関の運行支援>

・平成25年から実施している、エリア制バス運賃の実証実験に引き続き取り組むとともに、前年度に引き続き、大きめの文字を使ったわかりやすいバス・乗合タクシーの地区別時刻表を作成した。また公共交通空白地域への対応を地域のまちづくり委員会や高齢者団体とともに協議した。  
・利用者数は、前年度対比105.7%(内訳:バス106.2%、乗合タクシー100.2%)であった。  
・運賃収入は、利用者数の増加に伴い回復基調にあり、全体では前年度に比し101.1%となった。  
・乗継タクシーについては、利用実績を踏まえ、4月からは、他の乗合タクシーの路線を伊那八幡駅経由とすることで対応することとした。

## 5 上記を踏まえて、今後は、どのような対策を実施していきますか

### <道路の新設・改良>

・国庫補助事業対象路線については、市道評価システムによる道路評価を行い計画的な事業実施を図ると共に国の補助制度等を注視する。  
・飯田市単独事業対象路線については、地域状況や道路状況等を精査し緊急性・必要性・コスト性を考慮し計画的・効率的な事業実施を図る。  
・リニア中央新幹線の動向を注視し、関係者や関係機関との連携を図り、インフラ整備の考え方を整理すると共に具体的な事業計画を検討する。  
・視察対応等により、ラウンドアバウトの有効性を当市の先進的な取組とともに発信する。交差点整備にあたっては、ラウンドアバウトを検討していく。

### <道路の維持管理>

・平成25年度より導入した発注方法及び契約方法をさらに精査し、維持補修工事の効率化・透明化・コスト縮減を目指す。  
・道路ストック総点検の結果を精査し、短中長期の維持補修計画の策定を行い、計画的・効率的な維持補修工事の実施による維持補修費用の平準化と縮減を図る。  
・除雪業務及び融雪業務については、地域との役割分担を明確にしていく中で、指定路線273路線において、効果的な業務を行う。

### <橋りょうの維持管理>

・平成24年度に策定した橋梁長寿命化修繕計画に基づき、橋梁の修繕工事及び耐震工事を計画的・効率的に実施し、橋梁に係わるコスト縮減を図る。  
・管理する全橋梁に対し5年ごと点検・診断・措置・記録のメンテナンスサイクルの確定をし、メンテナンス体制の整備を行い、維持管理コストの縮減と橋梁の安全性を確保する。

### <国・県による事業の促進>

・三遠南信自動車道を始め、国県道を含めた基幹道路の整備促進と要望活動を展開する。  
・国や県の動向を注視しながら、予算確保に向けた活動を行う。

### <公共交通機関の運行支援>

・バスが手頃な運賃で通勤通学時間を勘案した運行体系になっていることや、乗合タクシーの使い方そのものについての理解が足りない部分も大きいと考えるため、様々な機会を通じて情報発信をする。併せて、アンケート等により極め細かく状況を把握し、公共交通全体の利便性を高めていく。  
・現路線の状況を的確に把握し、リニア時代を見据える中での地域公共交通の在り方について検討を行う。  
・JR飯田線の利活用についても、関係機関と連携してイベント列車を走らせるなどの取り組みを行う。

## 6 平成26年度事務事業 施策系統図

**目標 施策4-4**

**対象**  
市民、市内滞在者、財産、事業者

**意図**  
便利で安全に移動ができる

**成果指標**

市内の移動に不便を感じる市民の割合【道路】

市内の移動に不便を感じる市民の割合【交通機関】

道路の新設・改良

道路の維持管理

橋りょうの維持管理

国・県による事業の促進

公共交通機関の運行支援

**事務事業**

社会資本整備総合交付金事業(道路改良)	
幹線道路改良事業	市道改良事業
潰地登記・道路台帳補正事業	
道路橋りょう事業促進事業	
土木関係促進事業	
ラウンドアバウト普及促進事業【26新規】	
社会資本整備総合交付金事業(舗装修繕)	
道路舗装補修事業	道路補修事業
道路維持管理事業(維持管理委託)	
幹線道路除雪事業	街路管理事業
社会資本整備総合交付金事業(橋りょう修繕)	
橋りょう補修事業	
県街路事業負担金	県道路事業等負担金
飯喬道路関連事業	県道関連事業
国県道対策関連道路改良事業(資材支給)	
道路事業促進同盟会参画事業	
市民バス等運行事業	